

科目名	メディア・ジャーナリズム 実践演習Ⅱ-英文編-	担当教員	立田 恵子
科目属性	専門科目群E	単位数	2単位（面接0.5単位）
<p>【授業概要】</p> <p>日本の情報は閉鎖的であるとしばしば指摘されます。それは、情報の大半が日本語による日本人向けの発信であり、世界の多くの人々には日本の情報が届かないという実情に起因しています。この科目では、英語での情報発信の必要性を考えながら、英文ニュースライティングの基礎を学び、英語で発信する実践的な演習を行い、世界的な視野からニュースのポイントを正確に把握する力、それをわかりやすく簡潔な英文で書く技術を身につけます。</p> <p>その中で、海外メディアと日本のメディアの違いを比較しながら、誰もが対外発信できるネット時代において、日本の閉鎖的な情報環境を改善するため、日本発の対外発信を拡大し、広い視野をもって世界と接する可能性を考察します。なお、ジャーナリズム・取材の基礎については別科目での修得を前提にしています。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語での情報発信の必要性を理解する。 2. 英文ニュースライティングの基礎と実践的な技術を身につける。 3. 世界的な視野からニュースのポイントを正確に読み解く力を身につける。 4. 日本の情報の閉鎖性を改善し、対外発信を拡大していくための方策を考える。 <p>【授業計画】</p> <p>授業は、以下に示す15回までの内容をテキスト「レジュメ・基礎から学ぶ英文ニュースライティング」に基づいて学習し、その総括的なスクリーニングを行い、討議します。その後、2週間以内に実践演習を含むレポートを提出してもらい、その評価を踏まえて、最後に科目習得試験を受けてもらいます。</p> <p>第1回：英文ニュースライティングの基礎（基本指針） 第2回：英文ニュースライティングの基礎（構成、スタイル） 第3回：英文ニュースライティングの基礎（見出し＝ヘッドライン） 第4回：英文ニュースライティングの基礎（書き出し＝リード） 第5回：英文ニュースライティングの基礎（ニュースの出所＝アトリビューション） 第6回：英文ニュースライティングの基礎（写真の説明＝キャプション） 第7回：海外メディアと日本のメディアの違い（ニュースのポイント、何がニュースか） 第8回：海外メディアと日本のメディアの違い（背景説明＝バックグラウンド） 第9回：海外メディアと日本のメディアの違い（情報源＝ソース、アトリビューションの扱い） 第10回：プリントメディアとデジタルメディアの違い 第11回：実践演習（政治・外交） 第12回：実践演習（経済・金融） 第13回：実践演習（事件・事故、裁判） 第14回：実践演習（生活、文化、話題もの）</p>			

第 15 回：実践演習（スポーツ）

【評価方法】

評価は、スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、「科目修得試験」（50%）の割合で行います。

【教科書】

「レジюме・基礎から学ぶ英文ニュースライティング」（立田恵子）

「見出しとリードで読み解く英語ニュース」（語研） ISBN: 978-4876152841

【参考図書】

News Writing (Sage Publications Ltd.) ISBN: 978-1446256305

The Associated Press Guide to News Writing (Peterson' s) ISBN: 978-0768919790

英語対訳で読む現代ニュース（実業之日本社） ISBN: 978-4408337333